



おもむく、へびく、東北から

「日本女性会議2012仙台」参加報告

10月26日・27日の2日間、仙台市において「日本女性会議2012仙台大会」が「きめる、うごく、東北から」をテーマに全国から約2100人の参加者のもと開催されました。

日本女性会議は、毎年各都市が開催を引き継ぎ、全ての人が個人として尊重される男女共同参画社会の実現をめざして開催されるものです。

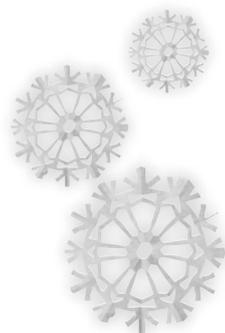
26日の全体会では、内閣府男女共同参画局長から「日本の男女共同参画施策の現状と今後の課題について」の報告、続いて特別プログラム「女性たちが語る3・11〜これまでと今と」では、被災地の女性たちがどのような困難を抱え、どのように立ち上がってきたか改めて3・11から現在までを振り返り、被災地で何をし、何を感じてきたかなど支援に関わった女性たちによるパネル討論があり、震災直後の行動や復興の課題などについて意見が交わされました。

27日は、6つの分科会のほか、ノルウェーの女性国會議員の講演がありま

した。参加しました第1分科会では、「復興・防災に女性の声をく出す、ひろう、生かす」をテーマに3名のパネリストによる報告があり、地域防災活動に女性の視点を具体化させる取り組みを中心に、多くの例を挙げながら話されました。「男女共同参画の飛躍的な推進こそが日本社会再生のカギ」。

その一層の加速に向けて「女性が意思決定の過程に参画していくこと」。「復興とは、震災前に戻ることはなく、さらに良い社会へ発展させること」。そのためには、一人ひとりがすべきこと、実践できることは何かなど意見が交わされました。

今回参加されました女性団体連絡協議会から参加レポートを提出していただきましてのでご紹介します。



「やっつ・・・やっつ泣けた」
〜思い出が動き出す日〜

岡田美恵子

朝、鳥取から列車と新幹線
を乗り継いで仙台に到着した
のは午後4時半ごろで、降り
立った仙台駅は大震災があっ
たことなど無かったように賑
わっていました。街路樹も
とても綺麗で仙台の市街地が
目の前に広がっていました。

しかし、仙台空港近くの海岸
沿いの住宅街は、家の基礎だ
けが草むらの影にかろうじて
残っているだけで、かつては
たくさんの方がここで暮ら
し、笑顔が行き交っていたの
だろうなと思うと胸が締め
付けられました。傍らには行
き場のないクマのプーさんの
ぬいぐるみと、変形して原型
の判らない車がまだ残され
ていました。

全体会、第1分科会、記念
講演を通して見えたことは、
未曾有の震災に加えて原発事
故から発する多くの苦難、困
難そして風評被害。女性たち
自身が抱える不安や心配、例
えば原発が原因での婚約破
断、子どもを産まなかった人

産もうとしなかった人などな
ど色々・・・。

それぞれの3・11、それぞ
れの1年7ヶ月が過ぎ、人の
心に支え合いながらここまで
きたとのこと。そして、経験
から学んだこと、同じ困難を
繰り返しさなためにも女性の
視点から見た地域防災、災害
が起きたからではなく生活の
延長線上で起きたものとして
あらゆる多様性に配慮し認め
ながら連帯していく必要があ
るとのこと。

女性たちが主体的に発言
し、責任をもって関わってい
くことができるよう、エンパ
ワーメントを考えていきたい
と思います。

会場で見つけた書籍「心の
おくりびと 東日本大震災
復元納棺師〜思い出が動き出
す日〜」(金の星社) 一度読
んでみてください。被災者
の方々にとってガレキは「宝
の山」です。思い出は宝物で
す・・・。